



平成15年11月に行われた病院創立
75周年記念植樹祭で植樹された桜

目次:

病院移転20周年	～南館2病棟 准看護師 稲村光代・南館2病棟 ケアワーカー鶴田末子～	2ページ
	～北館2病棟 ケアワーカー 岩上恵美・精神保健福祉主任 田村良次～	2ページ
	～南館2病棟看護主任 中村良太郎～	3ページ
令和2年度司法精神医療等人材育成研修(web研修)に参加して	～精神保健福祉士 國崎恵里子	3ページ
コロナ禍だからこそ止めてはいけない医療活動	～薬局長 中島弘光～	4ページ

病院理念

誠意をもって医療にあたろう
心も人の痛みを理解しよう
心の和む雰囲気を作ろう

基本方針

患者本位の医療を实践する

運営方針

新型コロナウイルス感染症「持ち込み防止と
早期発見」の予防管理に徹しよう

病院移転20周年

病院が移転し20年を迎えました。移転した年に入職した職員より思い出や心に残った出来事などを掲載しています。

20年という月日に、色々な出来事がありました。その一つに電子カルテの導入があります。パソコンを触った事のない私にとっては、毎日が戸惑いの日々でしたが、色々教わりながらもどうにか一人前になり、今では記録もスムーズで時間的にも余裕ができ患者さんと過ごすことが増えたように思います。

ここ最近では新型コロナウイルス感染症に伴い感染予防対策に追われ、日常生活面で不自由さやストレスを感じている患者さんも少なくありません。今後も職員一同協力して感染予防に取り組みながら、患者さんのストレス緩和、心のケア等に努めていきたいと思えます。今まで幾度となく「仕事を辞めよう」と考えたこともありますが、ここまで続けられたのは、何より精神科看護という仕事が私に合っていたのだと感じました。これからも健康に留意して、一人の看護者として頑張っていきたいと思っています。



南館2病棟 准看護師 稲村 光代

重本病院が、新築移転して今年の3月で丁度20年になります。私が、入職したのもこの時期で、あっという間の20年でした。入職する前は、ホームヘルパーをしていたので介護の仕事は経験していましたが、精神科病院での仕事をするのは初めてで、自分にできるか凄く不安でした。しかし、周りの先輩や同僚に支えられ頑張ることができました。

この20年間の私の思い出はなんと言っても慰安旅行です。入職した年に行った北海道、その後は、京都、韓国、ハワイなどいろいろな所に行かせていただき、今でも風景や景観が思い出されます。昨年、今年とコロナ禍の世の中で自粛生活が続き、かつて行かせていただいた慰安旅行がとても懐かしく思います。これからも健康に留意し頑張りたいと思っています。



ハワイ旅行

南館2病棟 ケアワーカー 鶴田 末子

私は重本病院に入職して20年が経ちました。沢山の思い出がありますが、一番の思い出は夏祭りです。患者さんと一緒に櫓を立て、各病棟で屋台を出し、患者さんやその家族も一緒に楽しんでいました。また、職員の踊りや仮装があり、踊りの担当者は昼休みに練習がありました。踊りを覚えるのが苦手な私は、家で何度か練習をしました。現在は夏祭りや文化祭はありませんが、今でも忘れられません。

新型コロナウイルス感染防止の為、人が集まる場所は避けているけど、またあの頃のように患者さんと踊ったり歌ったりできる、普通の生活に戻って欲しいと願っております。



夏祭り

北館2病棟 ケアワーカー 岩上 恵美

平成13年の移転当時、精神保健福祉士資格は、その4年前から認定が始まった若い資格でした。入職まもなく先輩のソーシャルワーカーが資格取得のため養成校に通い不在になることから、一つでも多くの仕事を覚えるべく奮闘していました。

病院移転は平成16年に国が示した『精神保健医療福祉の改革ビジョン』に先駆けて行われ、時代の精神科医療、福祉への先進的な対応でした。現在では、精神疾患が広義で精神面における健康（メンタルヘルス課題）として捉えられ、認知症高齢者、ひきこもり、親が高齢になった障害者（8050問題）などの生活課題が、社会の病理として明らかになり、病気の治療だけでは解決できない程に複雑化しています。その中であって、誰もが自分らしく生活できる地域づくりに貢献するのが、ソーシャルワーカーです。大変なコロナ禍、病院移転当時の志、熱意を思い、何を考え、何をすべきかを考える節目になりました。

精神保健福祉主任 田村 良次

この度、勤続20年と言うことで、このような機会をいただきありがとうございます。

私事ではありますが、20年を振り返り少し書かせていただきます。私は看護学校を卒業して、25歳の時に当院で働く事となり、精神科一筋で現在に至ります。はじめ訪問看護に配属されましたが、平成17年10月のデイケア開設に伴い、立ち上げから15年程従事しました。開設当初は、数名の通所でしたが徐々に認知度も上がり、相談や利用件数も増え、利用ニーズに沿ったデイケアへと変わっていきました。特に思考を凝らしたのが日々の活動でした。戸惑う事も多々ありましたが、皆さんで意見を出し合い、旬の食材を使った料理や、みなさんで取り組めるスポーツ、何時の間にか集中してしまう作品作り、料理で使う旬の野菜作り、誕生日会など曜日ごとに様々な活動を行ない、どなたでも1日過ごしやすいよう配慮してきました。失敗や思う様にいかない事もありましたが、治療プログラムとして様々な効果に繋げることが出来ました。また毎月1回レクレーションとして、花見やショッピング、外食などの院外活動や節分会やお楽しみ会などの季節行事も取り入れ、四季を感じながら沢山の思い出も作る事が出来ました。

デイケアは医療施設である為、疾患に目を向けがちですが、活動を通して特技や趣味などその方本来の元気な面を沢山知る事が出来ます。その人らしさを大切に病気と上手く付き合いながら、社会復帰への自信に繋げていく役割も担っています。その他、家族との面談やサービス事業所との会議を積極的に行い、地域との仲介を担いながら社会復帰のサポートにも貢献してきました。15年間という長い期間でしたが、スタッフだけでなく通所者皆さんで作上げたデイケアとなったことを大変うれしく思っています。当院では一番長い部署となりましたが、デイケアに携わったことで地域医療のあり方について、沢山学ぶことが出来ました。その後、外来と訪問看護を2年ほど兼務し、昨年春、療養病棟へ異動となりました。今回、20年ぶりに病棟勤務となりましたが、これまでの地域医療の経験を活かし、退院支援の充実に貢献していきたいと思っています。



平成19年 日本デイケア学会 札幌

当院では、様々な学会や研修に参加させていただきました。また、スタッフの方とは、ソフトバレーボールで汗を流したり、泊り込みでの釣りなど楽しい思い出も作り、公私ともに充実した楽しい時間を過ごすことが出来ています。これまで、沢山の皆さんに支えられ、こうして20年間、精神科医療に従事出来た事に感謝しています。この節目に自分を振り返り、今後も看護師として悔いの無いよう精神科医療に携わっていきたく思います。今後ともよろしくお願いたします。

南館2病棟看護主任 中村 良太郎

令和2年度司法精神医療等人材育成研修・(web研修) 指定通院医療機関従事者研修に参加して

当院では安全で質の高い医療の提供を目標に、日ごろから院内で医療安全や院内感染対策などの研修が行われている。加えて、日々の業務に活かすため、院外で開催される研修にも、積極的な参加がされている。昨年より引き続きコロナ禍の影響により、従前のような現地、対面での研修が困難な中、以前と変わらない研修参加の機会を確保するため、PCを使用したWEB上での参加体制を整えている。インターネットを使用した研修は、場所の移動を必要せず、全国どこに居てもアクセスさせ出来れば参加ができるという強固な利点を持つ。

この度、独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター主催の、令和2年度司法精神医療等人材養成研修、指定通院医療機関従事者研修に参加した。北海道～沖縄に至る全国から多数の参加者があり、研修のうちの一つではPC上で各地の参加者と話し合いを行う機会があった。画面上で多人数と行うグループワークはこれが初めての経験であったが、画面越しとはいえ表情や声の伝わる交流は不思議な臨場感を感じさせ、対面同様、他者と対するよりよい緊張感を伴った、実りある時間となった。

移動や他者との対面の意味が変化していく現在、停滞せずに以前同様、またはそれ以上の研鑽をおこなうためには、新しい方法を柔軟に取り入れ、活用していくことが重要である。今後もこういった機会を活用し、日ごろの業務に活かしていきたい。



精神保健福祉士 國崎 恵里子

コロナ禍だからこそ止めてはいけない医療活動

日本政府はデジタル庁を発足するといっていますがいつになったらできるのでしょうか？昨年より当院薬剤部では一足先に業務のデジタル化の取り組みを行っていますので紹介します。

薬剤師の業務の中で医薬品情報提供「DI業務」があります。これは医師をはじめとした医療従事者に対して医薬品に関わる情報を提供する業務です。当院で従来DIを薬局だよりや医薬品メーカーからの情報を紙媒体で行ってきました。ほとんどの病院では最低月に一回、薬局だよりを発行しています。しかし月一回の発行で十分に情報を提供できるのか？疑問に思っていました。また膨大な情報に目を通す暇があるのか？そんな疑問を抱きながら労力を費やしてきました。そんな中、新型コロナウイルスの流行により今まで毎日のように病院に訪れていたMR(医薬品メーカー社員)は姿を消し全く情報が入ってこなくなりました。待っていても情報は入ってこないでMRとメールでやりとりをするようになり、情報を入手するようになりました。その情報をどのように発信するか？考えたのが今回紹介する薬剤部DIシステムです。



【特徴】

①ペーパーレスによる時間短縮、②作成費用が0円、③24時間スマホ、タブレットがあればいつでも情報を発信し閲覧できることです。これにより電子カルテのメールでは添付ファイルが送信できず、画像や映像を送信できなかったり、当院はShigemoto-Netという院内ネットワークがありますが、院内のパソコン端末からしか閲覧できないという問題を解決できました。またアクセスが容易となる二次元バーコードを作成することを思いつき、二次元バーコードといえば当院の支払い決済システムPayPayを思いだし職員に覚えてもらうため(PoyPoy)と名付けました。そして二次元バーコードを配布し簡単に閲覧するシステムを構築しました。内容はDIだけにとどまらず新型コロナウイルス関連情報を画像や動画を使って配信しています。

【立ち止まってはいけない】

さらに活動の手を緩めることなく2020年9月から毎週月曜日に医薬品メーカーによる院内医薬品勉強会を行っています。これもPoyPoyから簡単に参加できるシステムを構築しています。2021年3月末までに20回開催しました。

【待っていても情報は入ってこない】

多くの病院ではMRの医師面談を中止していますが、当院では面談を中止することなく対面とオンラインで行っています。それもPoyPoyの中にある面談予約システムを用い予約制にして密にならないよう15分以内で医師との面談を終了させるように調節しています。これにより医薬品情報が全く入ってこないということはなくなりました。

以上の取り組みによりコロナ禍以前より勉強する回数は増え、人とのつながりは密になったような気がします。知らないことが幸せと思う人もいるとは思いますが、知ることにより世間を騒がせている後発医薬品の問題や新型コロナウイルス関連の偏見や差別をなくすことができればこのシステムは大成功だと思います。院内に新型コロナウイルスが入ってこなければ今までと変わりのない環境下です。コロナ禍である今こそ医療の質を落とさずに患者の治療に当たることが我々の責務と考えます。今後も薬剤部ではさらなるデジタル化の取り組みを行っていきたいと思います。

薬剤部DIシステム (PoyPoy)

山口県下関市豊浦町大字黒井
10097番50
医療法人 光の会 重本病院 薬剤部

- NEW! 最新情報 (本日の情報)
- 新型コロナウイルス関連
ニュース
- 動画で見る新型コロナウイ
ルス情報
- ブックマーク
- オンライン勉強会の案内

薬局長 中島 弘光